
2022年度社会福祉士・精神保健福祉士全国统一模擬試験受験者への

進路意向等アンケート調査結果

(現役学生5,700人の進路意向)

令和5年2月7日



日本ソーシャルワーク教育学校連盟
JAPANESE ASSOCIATION FOR SOCIAL WORK EDUCATION

事務局

◆ アンケート調査の概要・趣旨・対象・倫理的配慮等 ◆

【アンケートの目的およびアンケート実施主体】

本アンケートは、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が、養成校在校者及び既卒者の進路意向及び就労の状況を把握し、今後の福祉人材確保対策推進及び社会福祉分野への進学推進の参考資料、今後のソーシャルワーク教育の充実のための参考資料とすることを目的として、令和4年度事業計画に基づき実施するものである。なお、本調査で得たデータは、統計的処理をしたうえで報告書等で公表することとし、個人が特定できる形式での公表はしない。

【アンケートの対象と倫理的配慮】

本アンケートの対象は、日本ソーシャルワーク教育学校連盟が実施する「2022 年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験」の受験者とし、マークシート形式のアンケート用紙に回答する。回答はすべて統計的に処理し、個別の氏名、学校名、受験番号、各自の模擬試験の得点、問題の解答番号等は公表しない。また、上記目的以外の使用はしない。
また、本アンケートへの回答は任意とし、回答の有無あるいは内容によって、回答者に不利益が生じない。本アンケートへの回答をもって、趣旨への同意を得たものとする。

◆ 回収率・方法等 ◆

【方法】

- 2022年10月第4週から11月第1週の間で本連盟が実施した「2022年度 社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験」の受験者9,305人を対象に、模擬試験終了後、各会場においてアンケートを記入する時間を確保し、試験問題冊子の巻末に掲載したアンケート項目についてマークシートにより回答。

【回収率、集計対象等】

- 受験者9,305人のうち、進路意向等アンケート質問項目にすべて無回答だった999人を除外し、8,306人の回答を有効回答とした（有効回答率89.3%）。
- 本レポートは、有効回答8,306人のうち、本連盟会員校が設置した会場で受験した現役の大学生5,706人（全有効回答の68.7%）の回答を対象に集計・分析した。

注）現役大学生以外の受験者2,600名の回答は大半が既卒者であることから、在学する現役学生の就職等進路意向に関するトレンドを把握する観点から、現役大学生以外の受験者を集計から除外している。

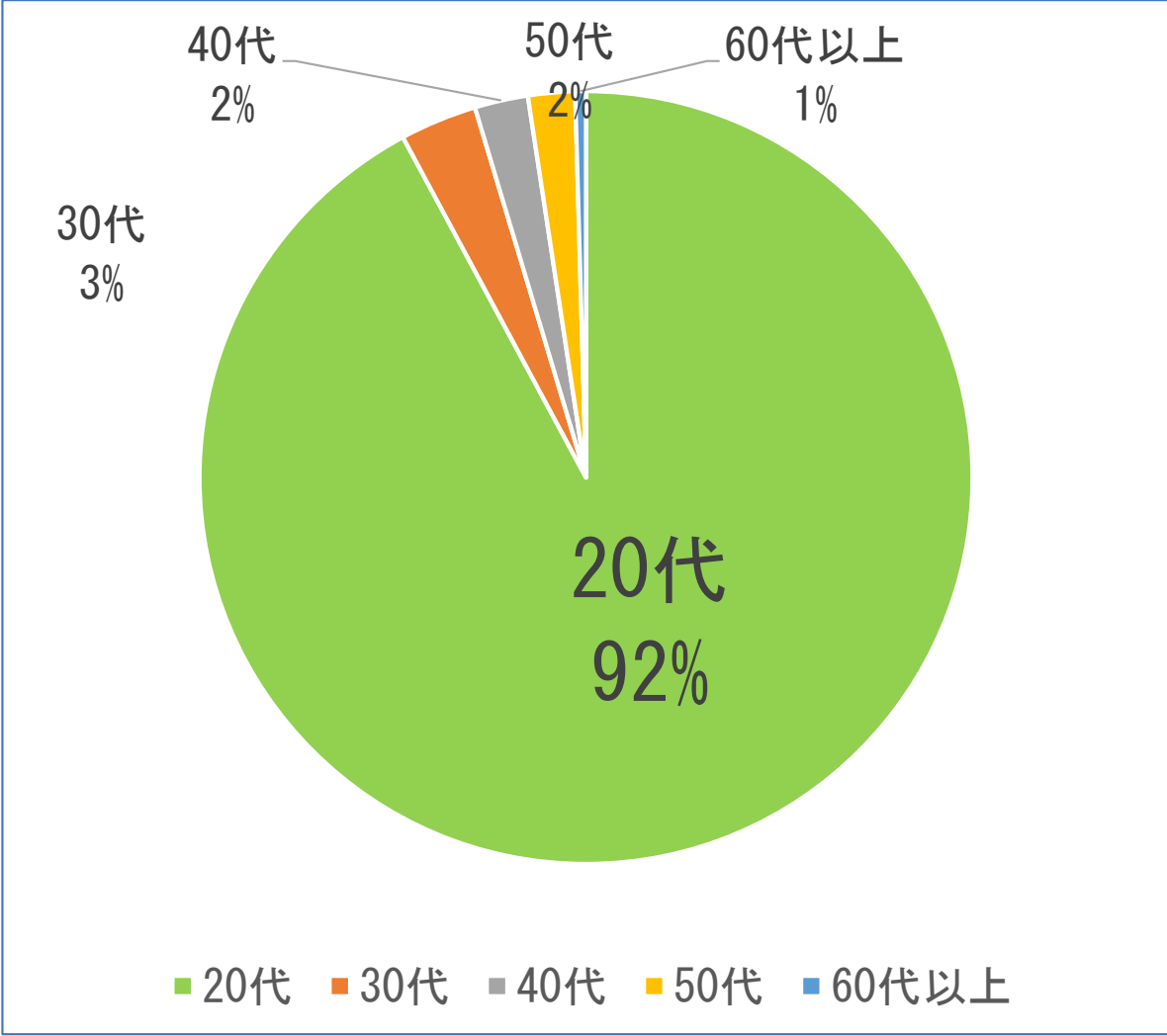
【アンケート項目】（巻末資料参照）

- Q1 あなたの年齢（年代）を選んでください。
- Q2 あなたの性別を選んでください。
- Q3 あなたがこれから受験する予定の国家試験について、当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）
- Q4 上記Q3 で1「社会福祉士国家試験」を選んだ方にお伺いします。あなたが社会福祉士国家試験の受験資格を取得する（取得した）養成校種別を1つ選んでください。
- Q5 上記Q3 で2「精神保健福祉士国家試験」を選んだ方にお伺いします。あなたが精神保健福祉士国家試験の受験資格を取得する（取得した）養成校種別を1つ選んでください。
- Q6 あなたが現在すでに取得済み（保有している）の国家資格について、当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）
- Q7 あなたが社会福祉士又は精神保健福祉士養成課程（大学や養成施設等）で行った実習の分野をすべてを選んでください。（MA）
- Q8 上記Q7 で14 以外を選んだ方（実習を行った方）にお伺いします。あなたが就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在の勤務先）を選択するにあたり、実習先で最も影響を受けた人について、当てはまるものを1つ選んでください。
- Q9 上記Q8 で1～4（5 以外）を選んだ方にお伺いします。あなたの就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）を選択する際にうけた影響について、当てはまるもの1つ選んでください。
- Q10 上記Q7 で14 以外を選んだ方（実習を行った方）にお伺いします。実習前と実習実施後で、あなたの就職に関する意識の変化について、当てはまるもの1つ選んでください。
- Q11 上記Q7 で14 以外を選んだ方（実習を行った方）にお伺いします。実習を行った結果、実習に行った施設・法人に就職したいと思いましたが、当てはまるもの1つ選んでください。
- Q12 あなたが社会福祉分野の大学や養成施設等（養成校）で学ぶことを目指した（意識した）年代を1つ選んでください。
- Q13 あなたが社会福祉分野の大学や養成施設等（養成校）で学ぶことを目指した理由をすべてを選んでください。（MA）
- Q14 あなたが社会福祉分野の大学や養成施設等（養成校）を目指した際、進学について反対した人はいましたか。当てはまる人をすべてを選んでください。（MA）
- Q15 あなたが社会福祉分野への就労を目指した（意識した）年代を1つ選んでください。
- Q16 あなたが就職・就労するにあたり、希望する採用形態を1つ選んでください。
- Q17 あなたの現在の就職活動または就労の状況を1つ選んでください。
- Q18 上記Q17 で1「内定済み」又は3「すでに就労済み」を選んだ方にお伺いします。採用形態を1つ選んでください。
- Q19 あなたが現在関心をもっている分野について、当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）
- Q20 あなたが社会福祉士や精神保健福祉士の資格を活かして取り組んでみたいことについて、当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）
- Q21 あなたの就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）の運営主体を1つ選んでください。
- Q22 あなたの就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）の分野を選んでください。（MA）
- Q23 上記Q21 で1～7（8・9 以外）を選択した方にお伺いします。あなたが社会福祉分野での就労を目指した理由をすべてを選んでください。（MA）
- Q24 上記Q21 で1～7（8・9 以外）を選択した方にお伺いします。あなたが社会福祉分野に就職することについて、あなたの周りに反対した人はいましたか。当てはまる人をすべてを選んでください。（MA）
- Q25 あなたが就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）を選ぶにあたって、影響のあった学校（養成校）の在学中の体験等のうち、当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）
- Q26 あなたが就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）を選ぶ上で重視することについて、当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）
- Q27 就職（就労されている方は転職）に関する情報をどこから得ていますか。当てはまるものをすべてを選んでください。（MA）

■回答者の年代

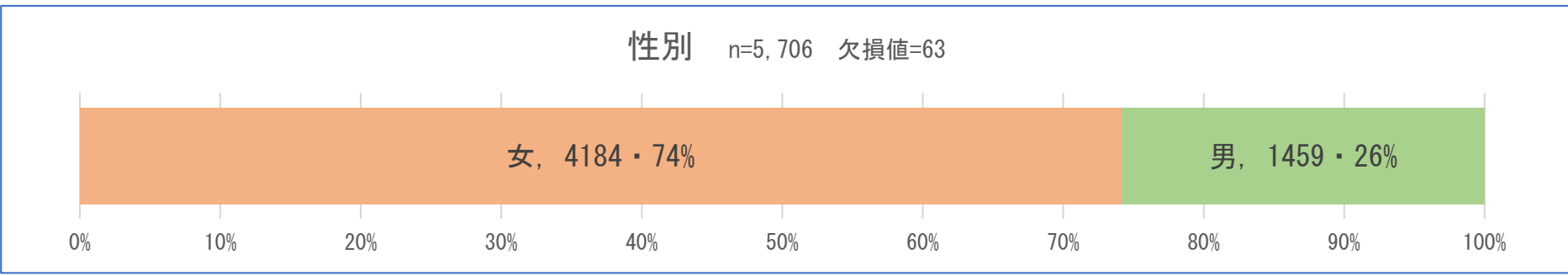
1. 年齢は、20代が92%と最も多い。

		度数	%
有効	20代	4904	92.1
	30代	171	3.2
	40代	119	2.2
	50代	104	2.0
	60代以上	24	0.5
	合計	5322	100.0
欠損値	無回答	384	
合計		5706	

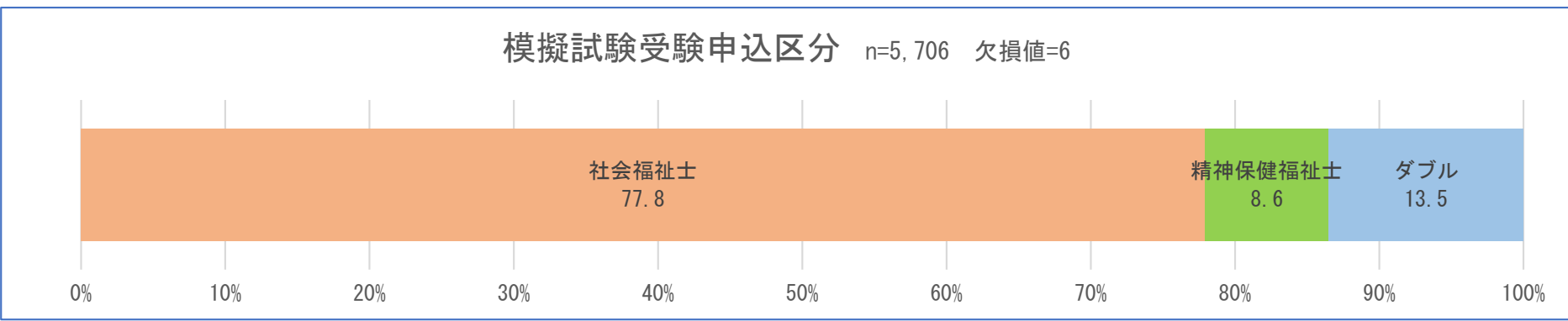


■回答者の性別と模試受験区分（模試の種類）

2. 性別は、女性が74%、男性が26%、無回答が1.1%であった。

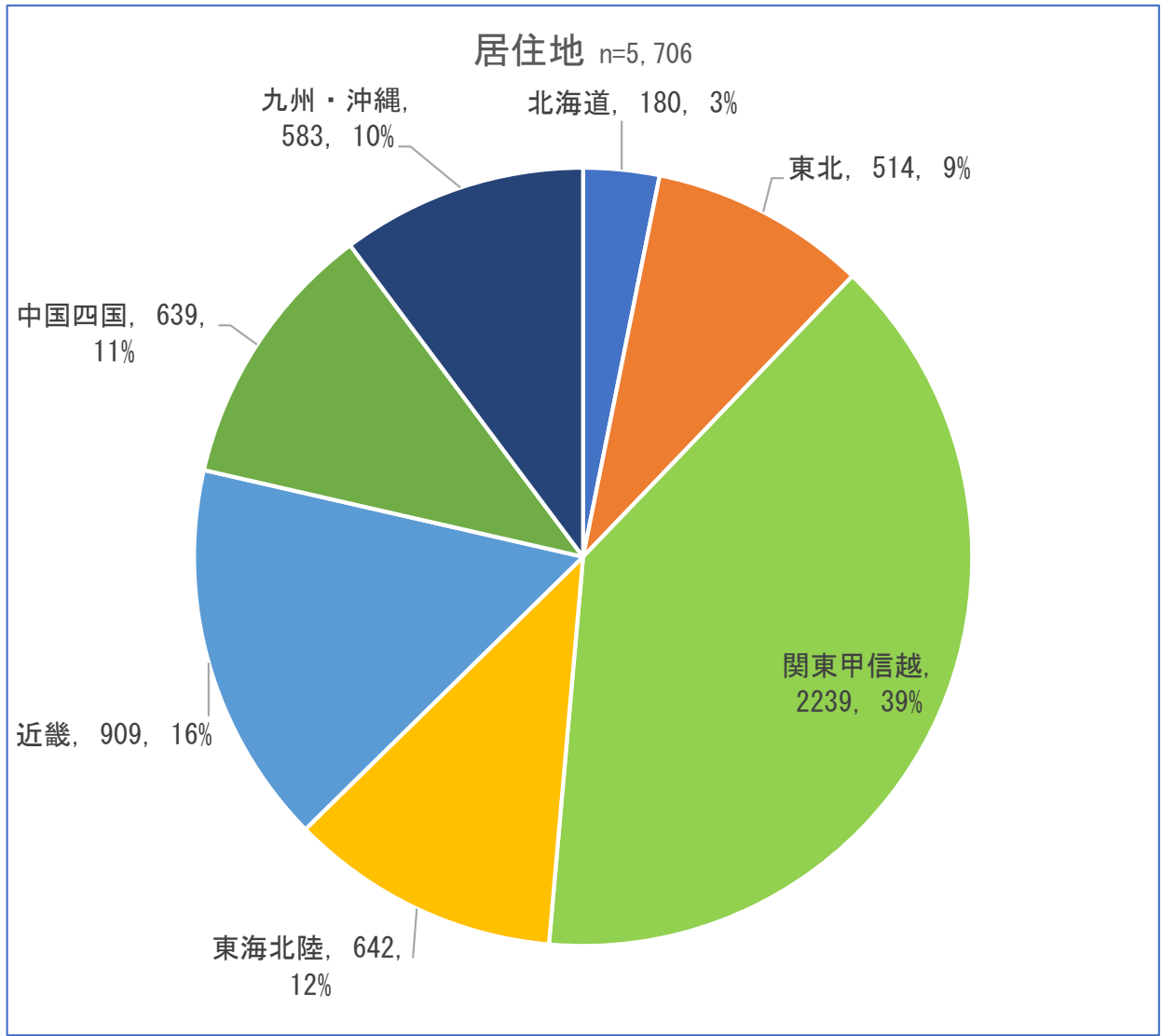


3. 受験申込区分は、社会福祉士のみが77.8%、精神保健福祉士のみが8.6%、社会福祉士と精神保健福祉士のダブルが13.5%で、集計対象の5,706人のうち、社会福祉士模試受験者の割合は91.3%、精神保健福祉士模試受験者の割合は22.1%であった。



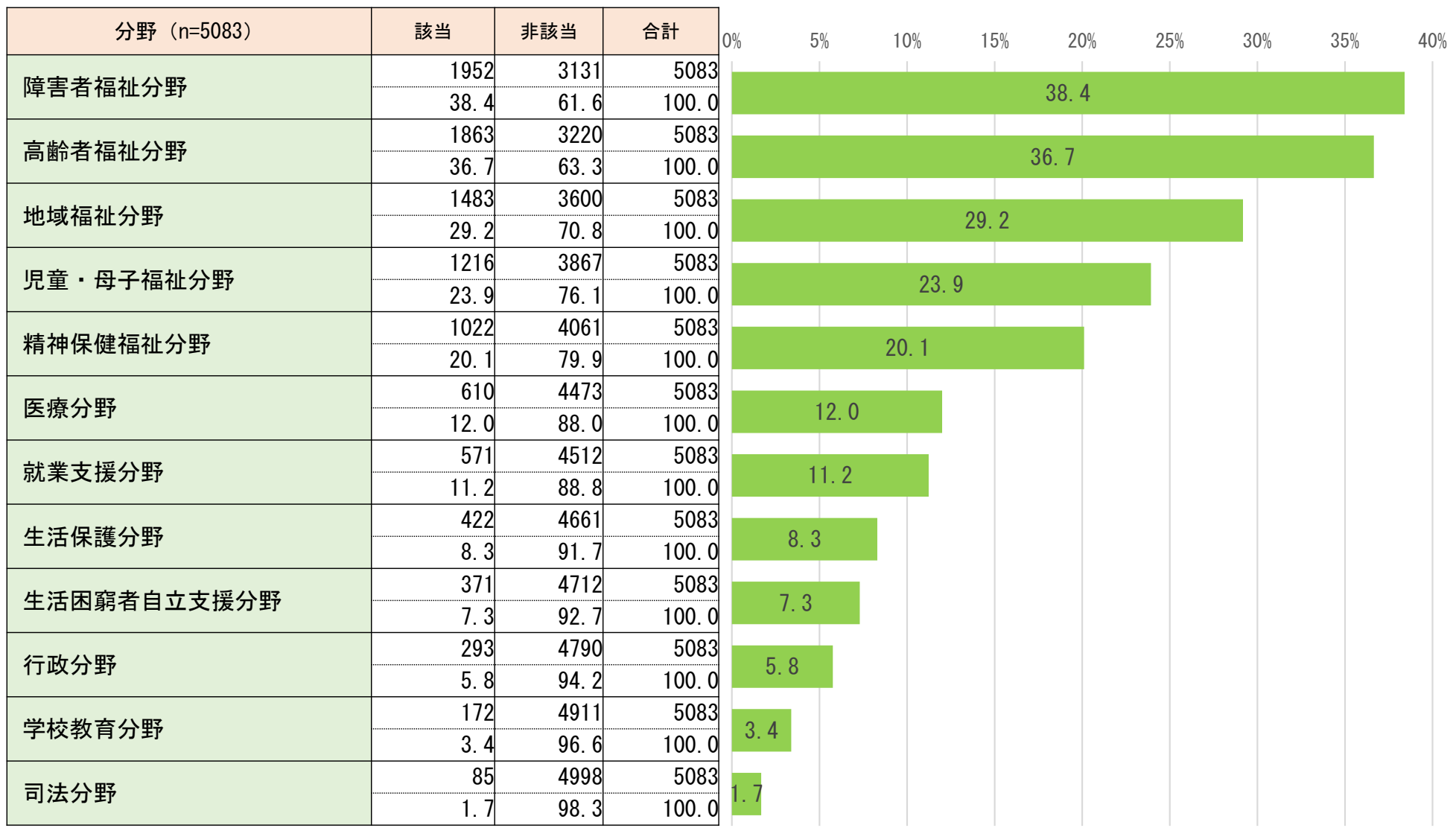
■回答者の居住地（ブロック）

4. 回答者の居住地



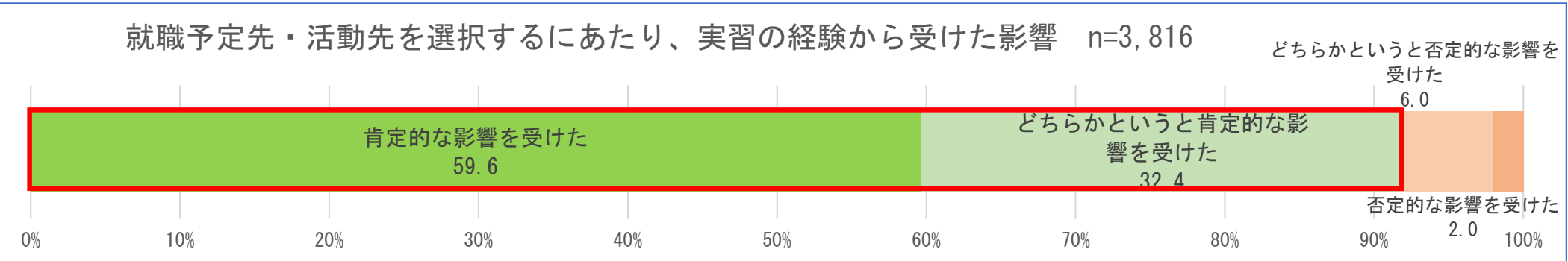
■ 模擬試験受験者が行った実習の分野

Q7. 実習を行った分野では、障害者福祉分野が38.4%、高齢者福祉分野が36.7%と多く、次いで地域福祉分野29.2%、児童・母子福祉分野23.9%、精神保健福祉分野20.1%であった。

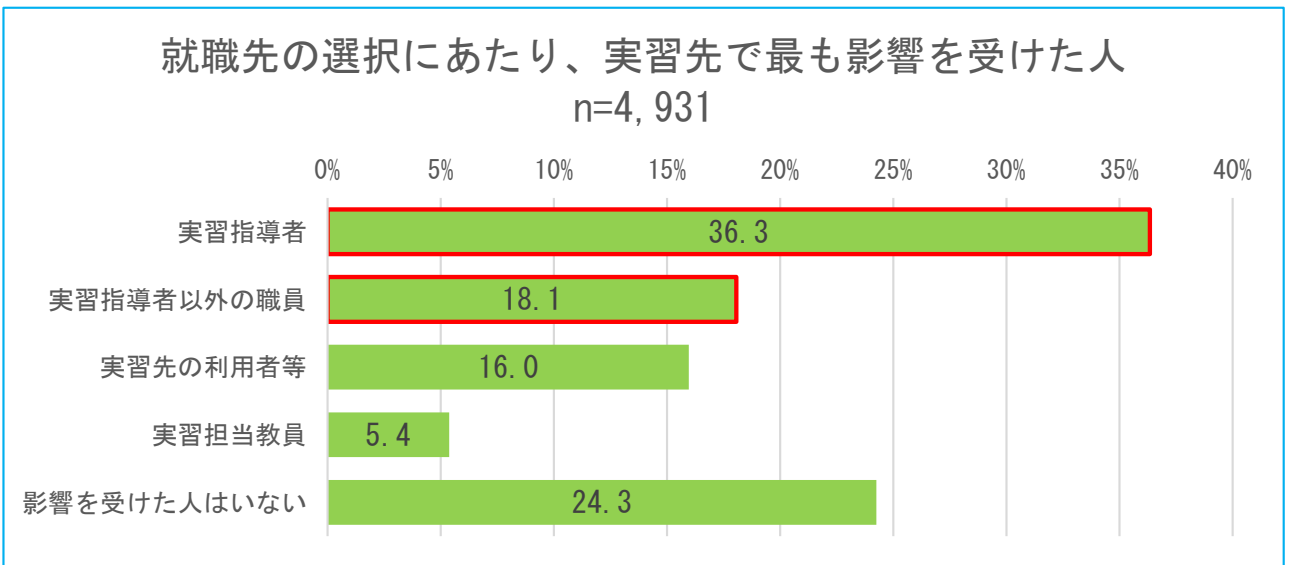


■就職予定先・就職活動先を選択するにあたって、実習の経験から受けた影響

Q 9. 就職予定先・就職活動先の選択にあたり、実習の経験から肯定的または否定的な影響を受けたか聞いたところ、肯定的な影響を受けた者は59.6%と最も多く、どちらかというとな肯定的が32.4%となっており、回答者の92%が、就職先を選定する上で実習の経験から『肯定的な影響』を受けている。

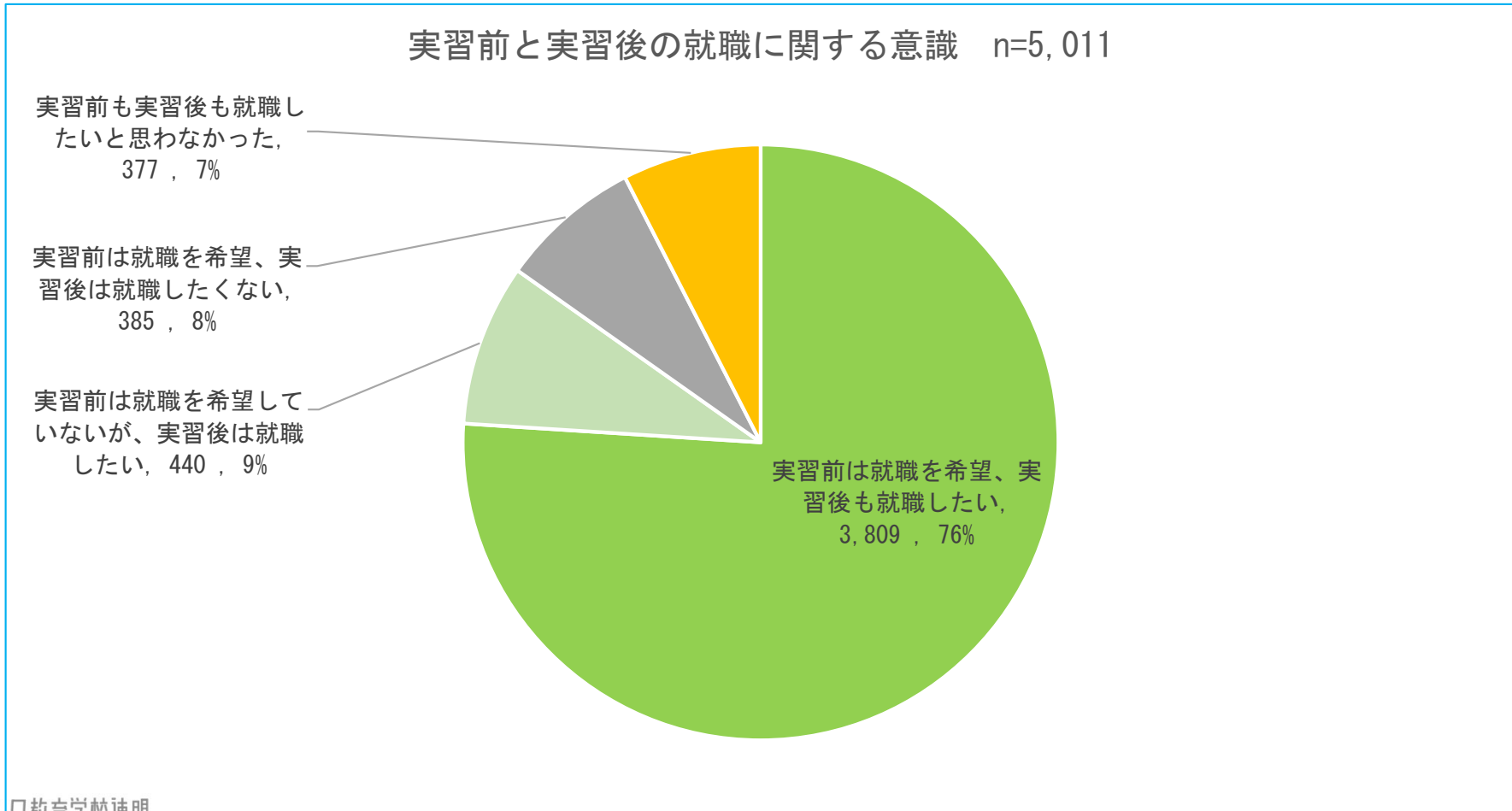


Q 8. 就職先の選択にあたり、「実習先で最も影響を受けた人」では、『実習指導者』が36.3%と最も多く、次いで『実習指導者以外の職員』が18.1%となっており、5割以上が『実習先の職員（実習指導者含む）』に就職先選択における影響を受けている。



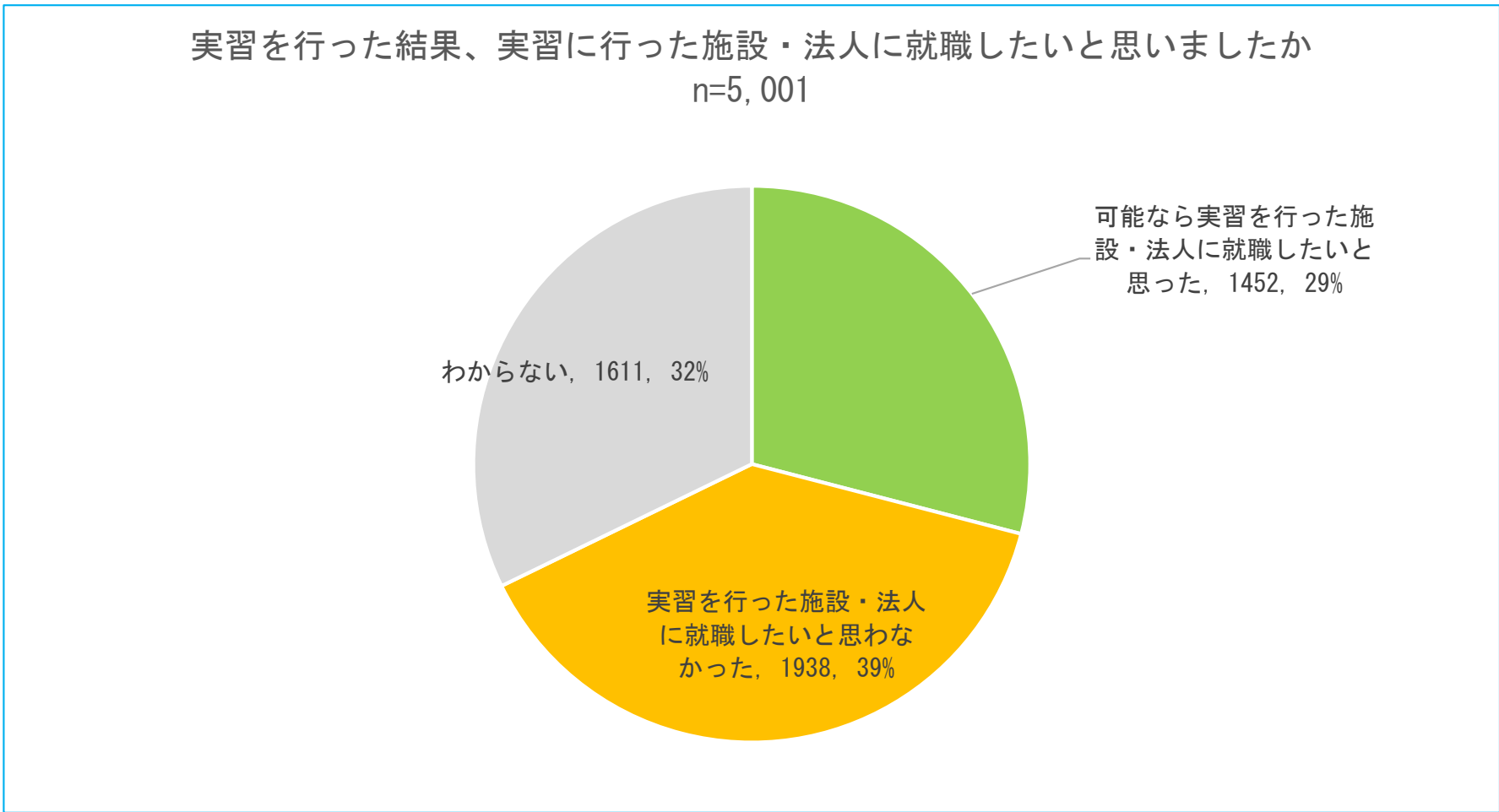
■実習前と実習後の、福祉分野への就職に関する意識

Q10. 実習を行う前と行った後での、就職に関する意識の変化では、『実習前は福祉分野への就職を希望しており、実習後も福祉分野に就職したい』が76%と最も多い。また、『実習前は福祉分野への就職を希望していないが実習後は福祉分野に就職したい』と意識が変化した学生は9%で、85%の学生は『実習が福祉分野への就職意識にポジティブに影響している』と言える。一方、『実習前は福祉分野への就職を希望していたが、実習後は福祉分野に就職したくない』と意識が変化した学生は8%、『実習前も実習後も福祉分野に就職したくない』が7%おり、15%が『実習が福祉分野への就職意識にネガティブ』に影響している。



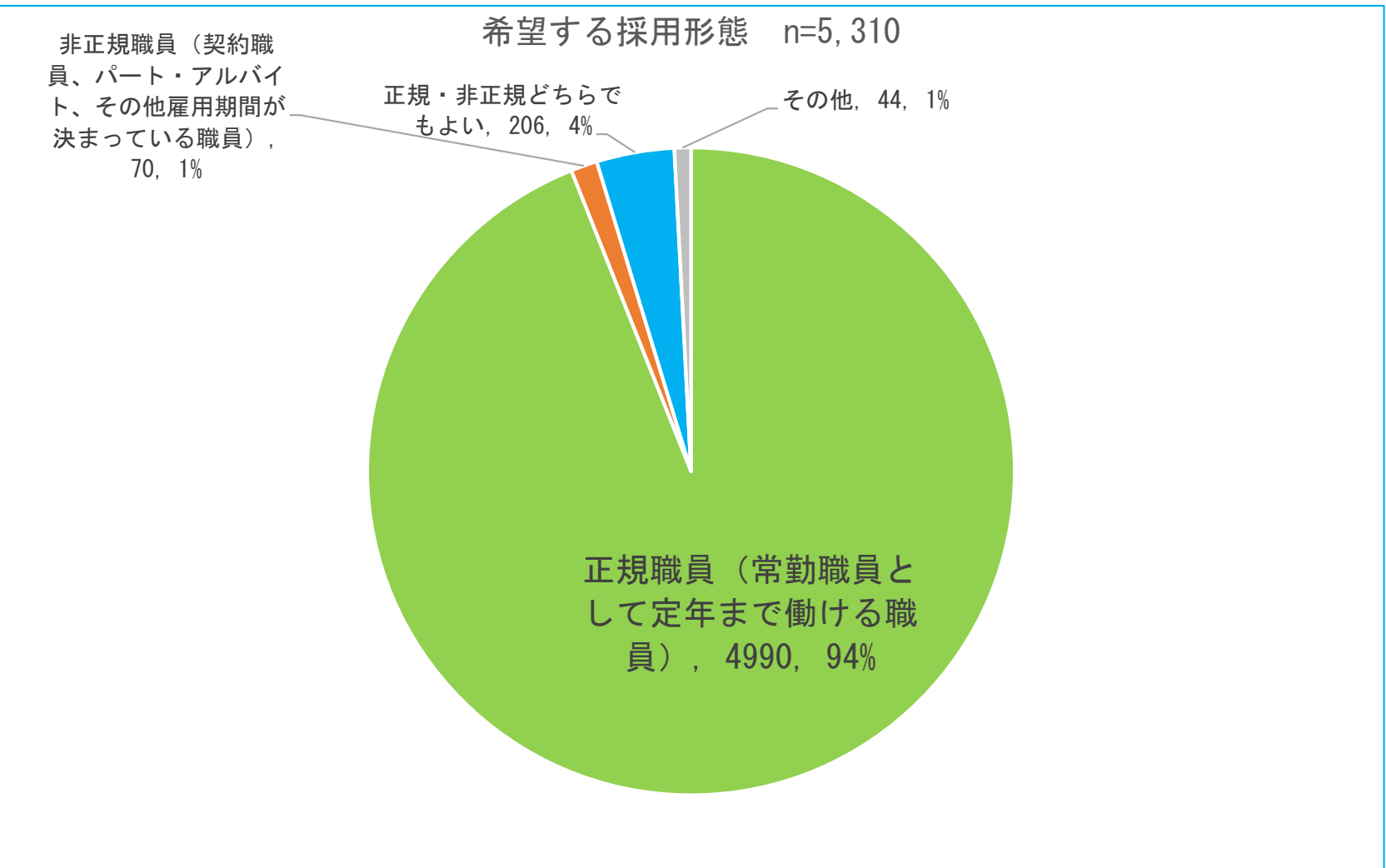
■実習を行った結果、実習を行った施設・法人に就職したいか

Q 1 1. 実習を行った結果、その実習を行った施設・法人に就職したいかを聞いたところ、『できることなら実習に行った施設・法人に就職したい』と、約3割が実際に実習を行った実習先を就職先に希望している。一方、『実習を行った施設・法人に就職したいと思わない』が約4割となっており、Q 9 及びQ 1 0で『実習による福祉分野への就職意識』がポジティブ（85%）に関連しているものの、実際に実習を行った実習施設への就職には必ずしも結びついてはいない。



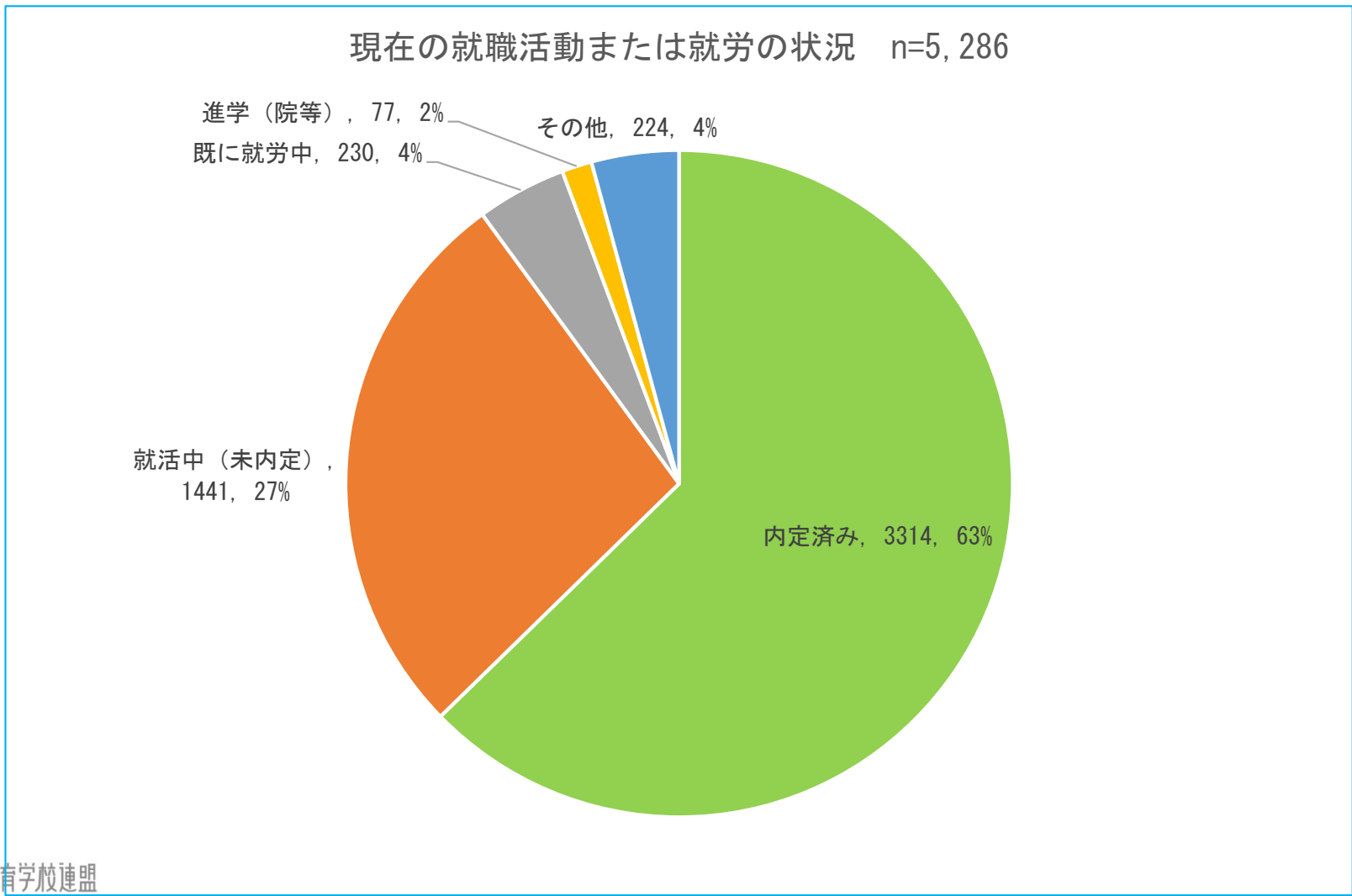
■就職・就労するにあたり、希望する採用形態

Q16. 就職・就労するにあたり、希望する採用形態について聞いたところ、常勤職員として定年まで働ける『正規職員』を希望する者が94%であり、ほとんどの学生が、常勤として定年まで働ける『正規職員』による就職・採用を希望している。



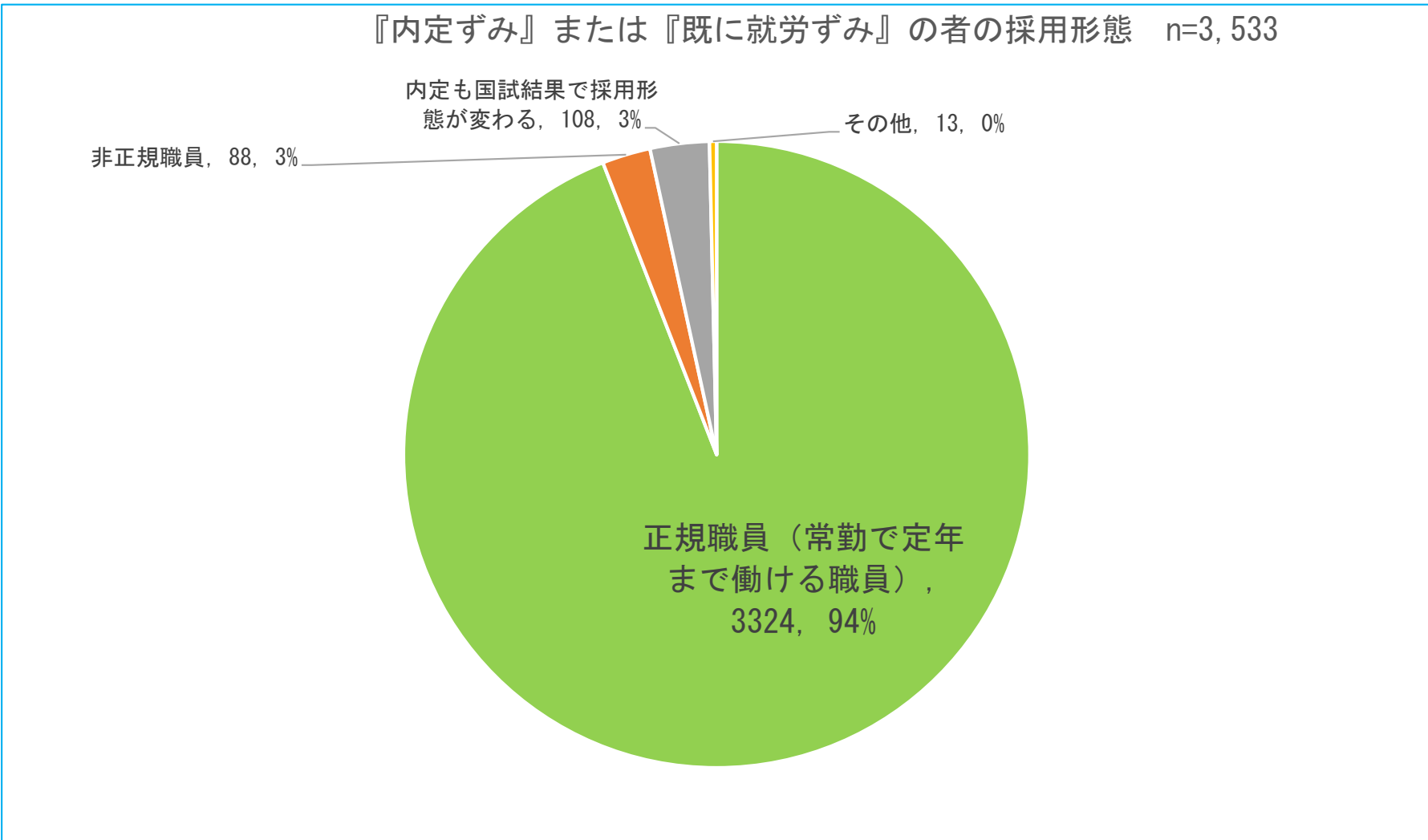
■現在の就職活動の状況（2022年11月第1週現在）

Q 1 7. 模擬試験を実施した2022年11月第1週現在の就職活動又は就労の状況について聞いたところ、『既に内定済み』が63%と最も多い一方、『就活中（まだ内定していない）』者が約3割であり、卒業年度（4年次）の11月上旬の時点で就職先が内定していない（11月以降も就職活動をする）状況は、他の一般企業等の就活市場に比べ、極めて遅いことが伺える。（一般的な就活市場では、大学3年時にインターン、大学4年時の前半（夏前）には内々定を出すことが一般的。）



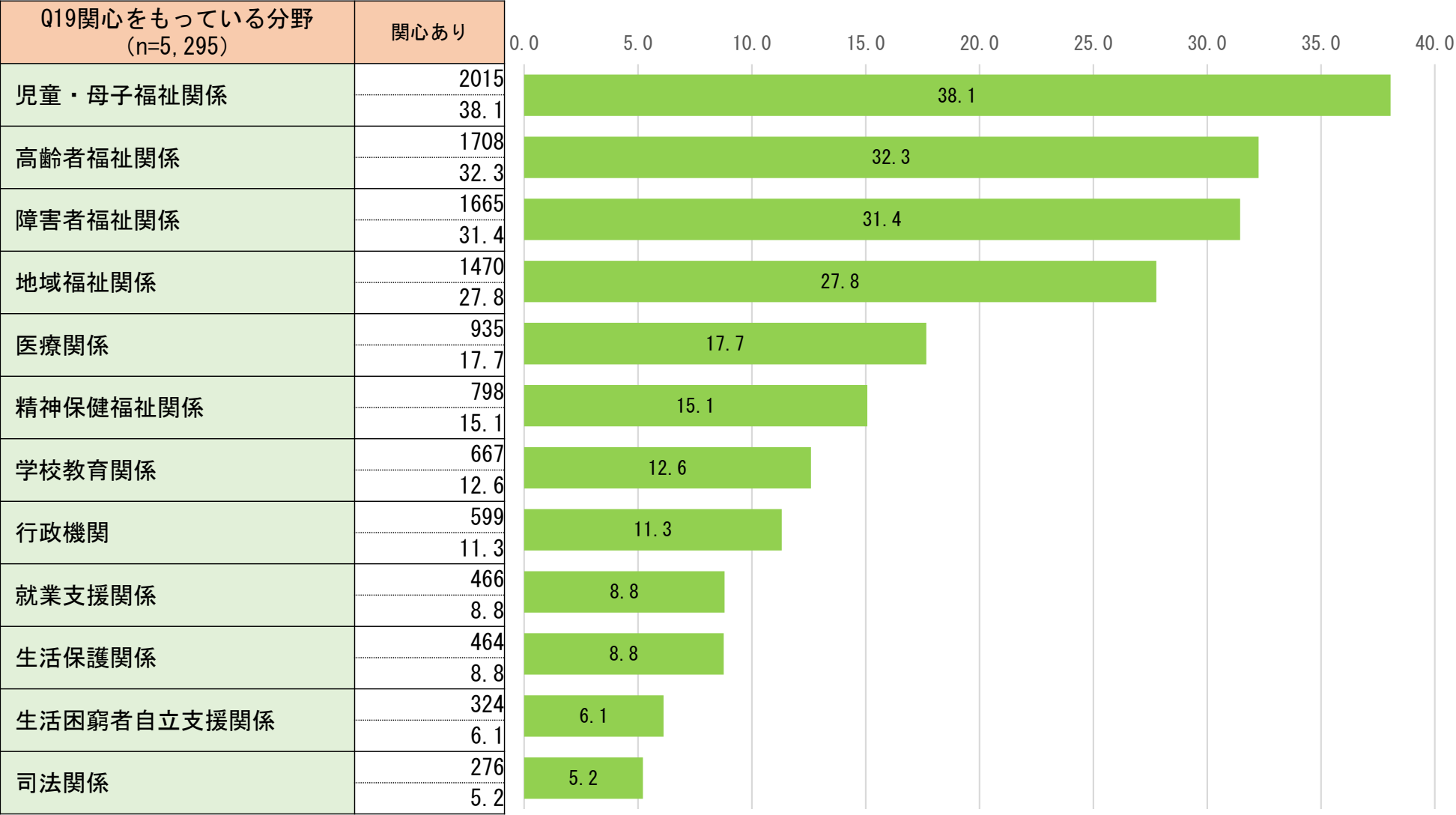
■ 『内定済み』 または 『既に就労済み』 の者の採用形態

Q18. Q17で『内定済み』または『既に就労済み』と回答した者の採用形態を聞いたところ、常勤職員として定年まで働ける『正規職員』と回答した者が94%であり、Q16の「希望する採用形態」と同じ割合である。実際の就職内定が「希望する採用形態」と同じ結果となっている。



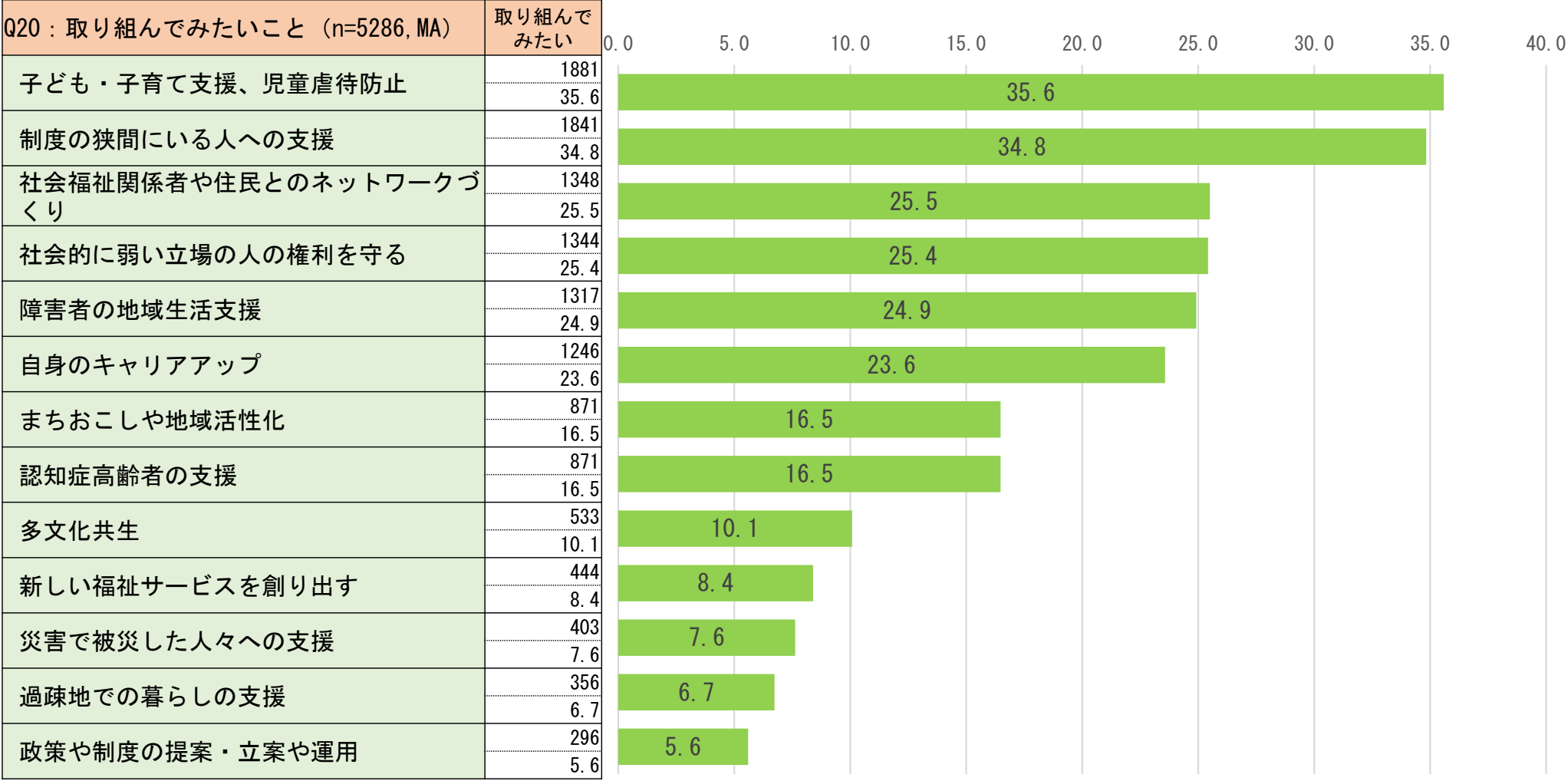
■関心を持っている福祉分野

Q19. 現在関心を持っている分野について聞いたところ、『児童・母子福祉』が38%と最も多く、次いで『高齢者福祉』32.3%、『障害者福祉』31.4%、『地域福祉』27.8%、『医療関係』17.7%となっている。



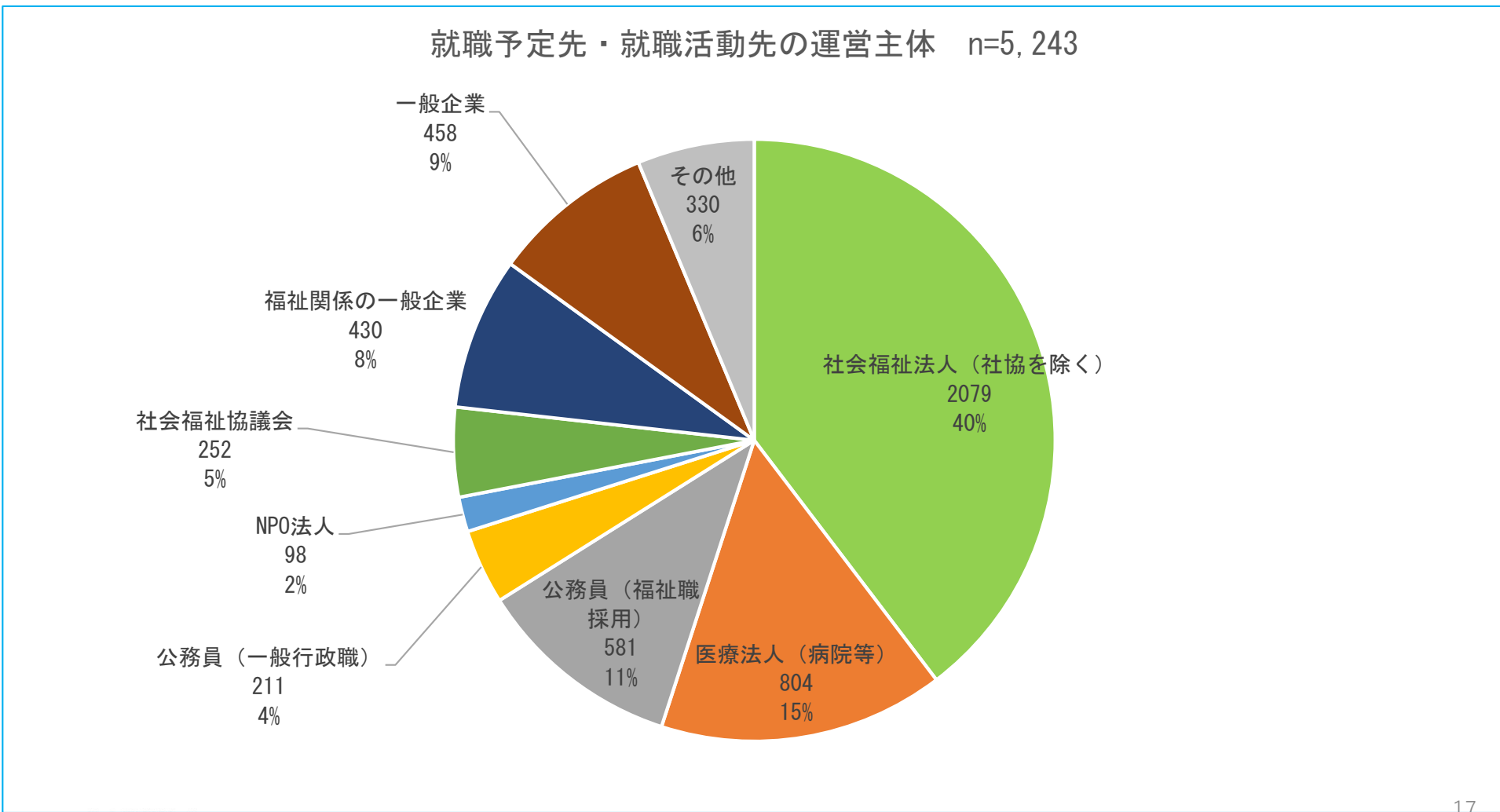
■社会福祉士や精神保健福祉士の資格を活かして取り組んで見たいこと

Q20. 社会福祉士や精神保健福祉士の資格を活かして取り組んで見たいことでは、Q19の「関心のある分野」と同様、『子ども・子育て支援、児童虐待防止』が最も多く35.6%、次いで『制度の狭間にいる人への支援』34.8%、『ネットワークづくり』25.5%、『社会的弱者の権利を守る』25.4%、『障害者の地域生活支援』24.9%の順となっている。また、福祉支援とともに、『まちおこしや地域活性化』16.5%、『過疎地での暮らしの支援』6.7%など、地方創生や地方活性化に関心があるとの回答も一定数ある。



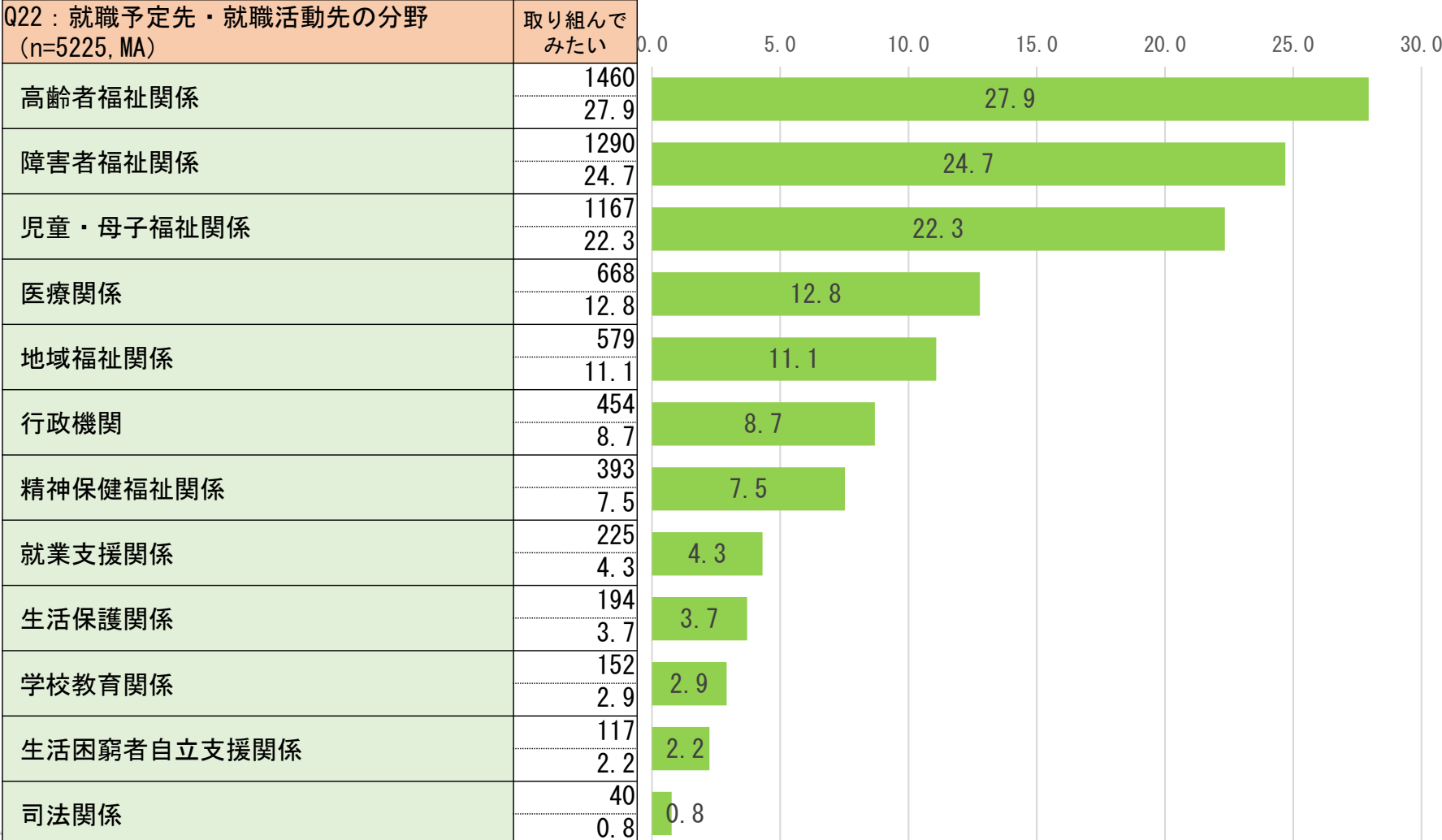
■就職予定先・就職活動先の運営主体

Q 2 1. 就職予定先・就職活動先の運営主体では、『社会福祉法人（社協を除く）』が40%と最も多く、次いで『医療法人（病院等）』15%、『公務員（福祉職＋一般）』15%、『一般企業』9%、『福祉系一般企業』8%、『社会福祉協議会』5%の順である。ただし、調査実施時点における就職活動の状況（Q17）では、約3割が「未だ内定していない」と回答していることを踏まえると、2022年度末時点では、採用活動が遅い社会福祉法人や医療法人の割合が増加することが推察される。



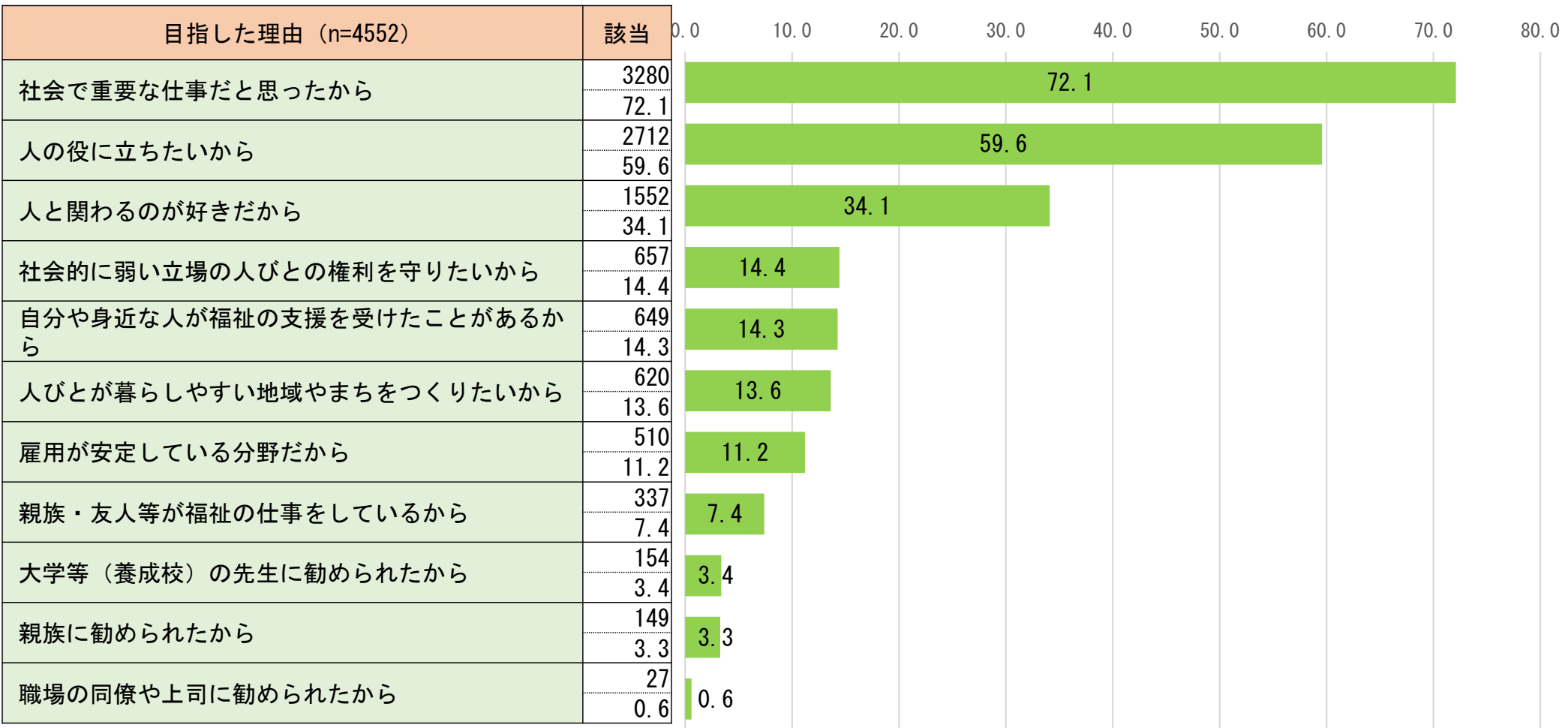
■就職予定先・就職活動先の分野

Q22. 就職予定先・就職活動先の分野では、『高齢者福祉』が27.9%と最も多く、次いで『障害者福祉』24.7%、『児童・母子福祉』22.3%、『医療』12.8%、『地域福祉』11.1%、『行政』8.7%、『精神保健福祉』7.5%の順となっている。Q19の「関心のある分野」では『児童・母子福祉』の関心が最も高かったが、一方でQ18では『正規職員』を9割以上が希望しており、実際の就職活動において「正規職員の採用が多い」高齢者福祉や障害者福祉が実際の就職活動先の分野として上位に上がったことが推察される。



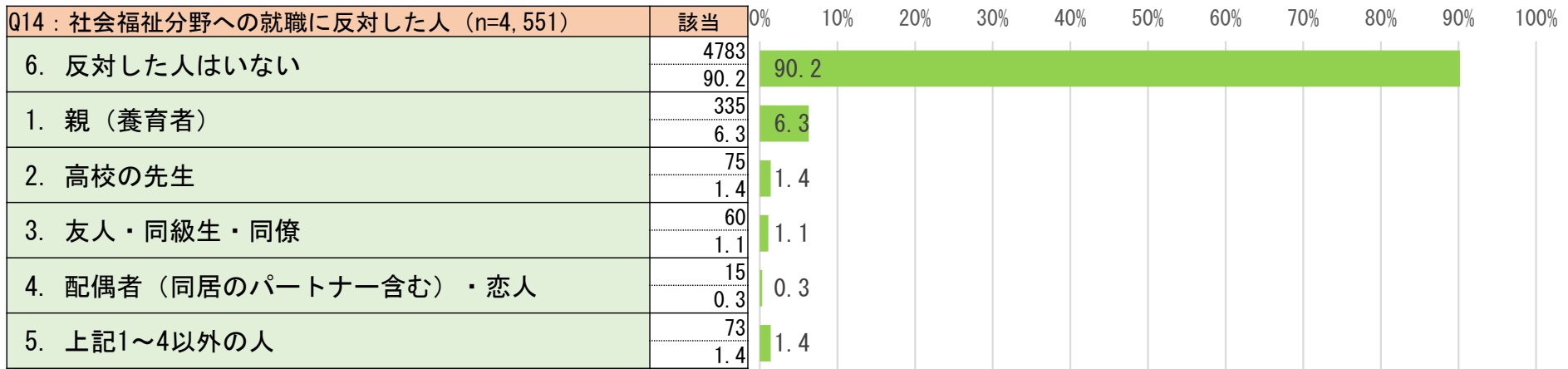
■福祉分野での就労をめざした理由

Q 2 3. 福祉分野での就労をめざした理由では、『社会で重要な仕事だと思ったから』が7割超と最も多く、次いで『人の役に立ちたい』が6割となっており、福祉分野の仕事が「社会にとって必要不可欠な業務」であり、「その業務に就いて人びとの支援にあたる」ことを指向しているといえる。また、就労をめざした理由の中で『他者からの勧め』（他者からの動機付け）では割合が1割未満と低く、学生は主体的かつ純粋に福祉分野の仕事の重要性と、自身の福祉分野の仕事への適性を考えつつ就労をめざしていると言える。



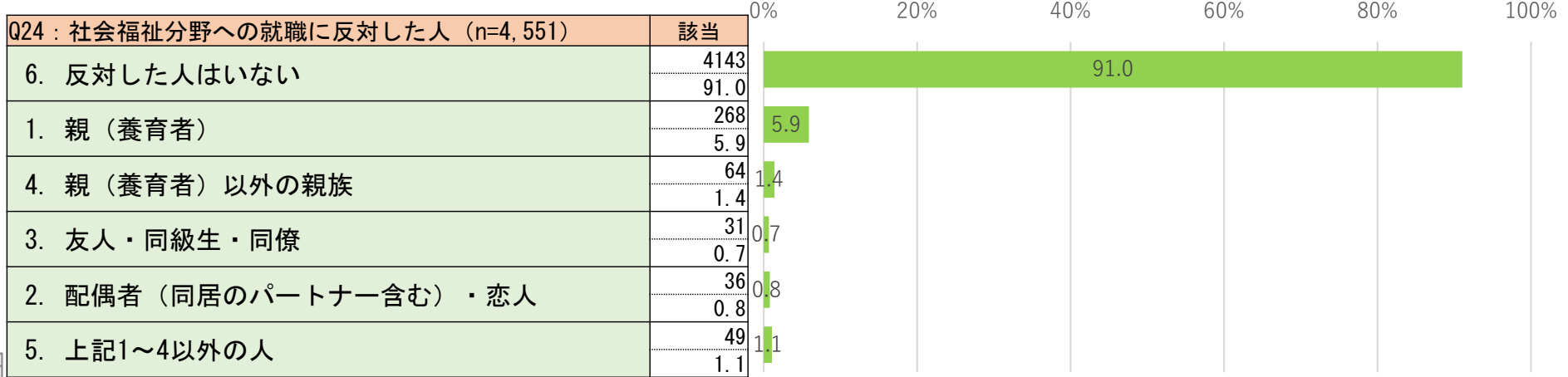
■社会福祉分野の大学等をめざした際、進学について反対した人

Q 1 4. 社会福祉分野の大学や養成施設等（養成校）を目指した際、進学について反対した人について聞いたところ、9割が『反対した人はいない』と回答しており、とりわけ介護人材確保にかかる議論で言われる『親が反対する』は6.3%、『高校の先生が反対』も1.4%と極めて低く、社会福祉士・精神保健福祉士養成においては、一般的に介護人材確保難の理由として言われる論点とは一致していない。



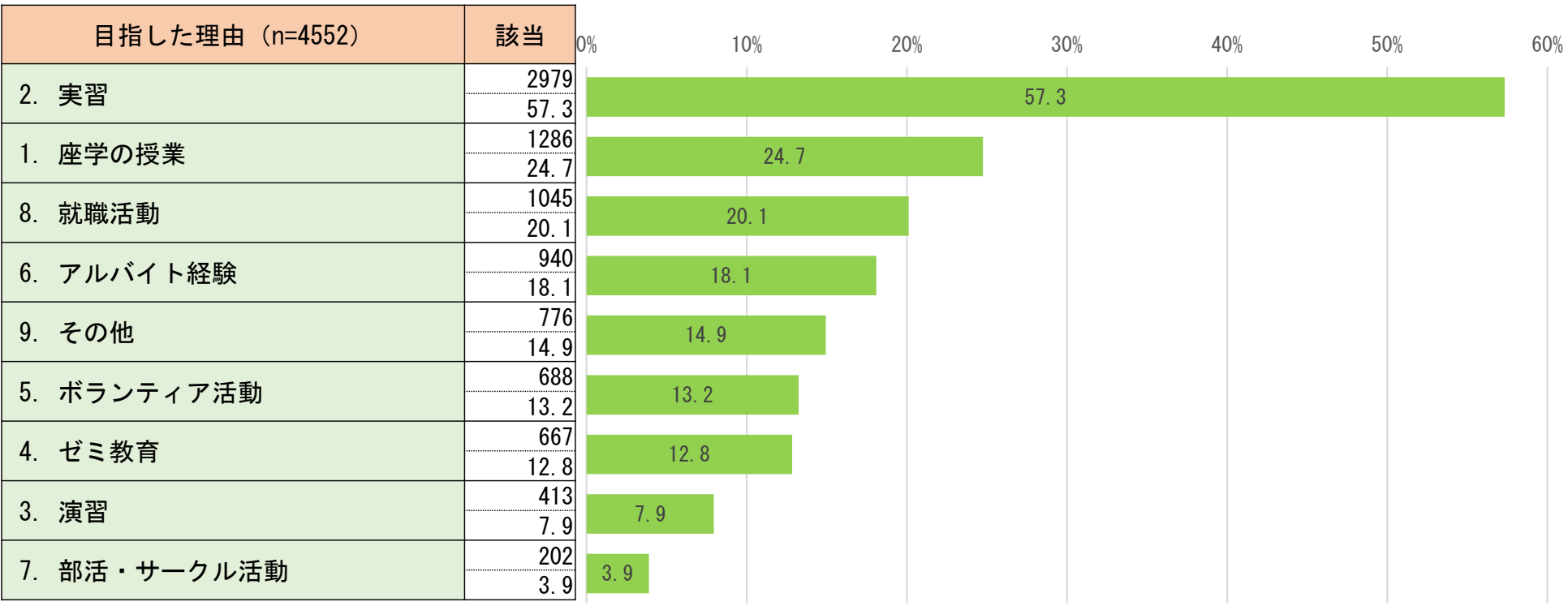
■社会福祉分野への就労について反対した人

Q 2 4. 同様に、社会福祉分野への就労について反対した人についても9割が『反対した人はいない』と回答しており、社会福祉士や精神保健福祉士の人材確保については、正規雇用の採用が確保されれば、将来的にも安定した人材確保が可能であると言える。



■就職予定先・就職活動先を選ぶ上で影響のあった在学中の体験

Q25. 就職予定先・就職活動先を選ぶ上で影響のあった在学中の体験では、『実習』が57.3%と最も多く、実習が就職に強く影響している。



■就職先選定で重視すること

Q 2 6. 就職先の選定において重視することでは、『仕事のやりがいがある』が64.0%と最も多く、次いで『労働時間や休日の取得』が43.0%、『給料』42.8%、『人間関係が良好』41.9%、『福利厚生』37.5%の順となっており、Q 2 3の結果同様、業務の重要性とやりがいを重視している傾向がわかる。

